令和３年度　第７５回　卒業式　式辞

立山連峰から立ち上る曙の光が明るさを増し、希望に満ちた春の訪れが感じられる今日、立山町教育委員会教育長　杉田孝志様、ＰＴＡ会長　山本智秋様のご臨席を賜り、保護者の皆様とともに第七十五回卒業式を挙行できますことを、心から御礼申し上げます。

二百三十三名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。
ただ今、一人一人に手渡した卒業証書は、中学三年間の学びの証であるとともに、義務教育九年間の修了証でもあります。皆さんは、小学校入学の日から今日までの九年間、雨の日も風の日も学校に通い、そこで多くのことを学び、人として生きていくための基礎を身に付けてこられました。中でもこの雄山中学校で過ごした三年間は、思春期真っただ中の思いが交錯し葛藤した、忘れがたい時間だったのではないでしょうか。

令和初の入学生として中学校生活をスタートした皆さんは、順調に一学年を終えようとしていた矢先、突如として新型コロナによる臨時休業に見舞われました。部活動や行事でお世話になった三年生の卒業式への出席もかなわず、二学年への進級も束の間、再び二か月間もの臨時休校。六月に学校が再開してからは、手洗い、マスク、換気、三密防止という感染対策に縛られる日々。コロナ禍の中で不自由な日常に耐え、今日までの二年間を辛抱強くがんばってこられました。
特に三年生になってからの皆さんは、本当に立派でした。今年度四月、みなさんと出会い、式や集会のときの一糸乱れぬ整列と静寂、その端正にして堂々たる佇まいに、「さすがは雄山中学校の最上級生」と感心したことを覚えています。
今年度も、引いては寄せるコロナの波を見極めながらの学校生活となりましたが、皆さんは、どのような変化や変更にもしなやかに対応してくれました。
その力が最も発揮されたのは体育大会です。二学期の開始とともに開催するはずだった体育大会。新型コロナ第五波のために一か月半も延期となってしまいました。しかし、皆さんは悔しさをぐっとこらえて、十月半ばの体育大会、その成功に向けて気持ちを持ち直し、見事大成功に導いたのです。勝敗を超えて全校が一つになった、よさこいソーランの笑顔と躍動は、今も忘れることができません。
コロナに翻弄された二年間でしたが、それでも、皆さんは日常の学校生活をとても大切にしていました。その中心となっていたのは、いつも生徒会でした。朝の「あいさつ運動」、「古着deワクチンプロジェクト」等、日常生活の中で自分たちが行動を起こすことから、世の中をよりよい方向に変えていこうとする活動を地道に展開してくれました。あいさつ運動のために朝早くから生徒玄関を開けて仲間の登校を待つ姿。一人一人に明るく声を掛け、交流の輪を広げようとする姿勢が全校に広がり、今ではほとんどの人が自分から挨拶できる学校へと進化してきています。

このように学年全員が力を合わせて学校全体を高めてきてきた皆さんですが、中学校を卒業することで、また一歩、社会の荒波に漕ぎ出すときが近づいてきました。
皆さんが卒業を間近に控えた先月、ヨーロッパで世界を大きく揺るがす事件が起こりました。新型コロナの流行で疲弊した社会に追い打ちをかけるような戦争の勃発に、今、国際社会は大混乱となっています。正に予測が困難な時代。このような予測ができない未来を乗り越えていくためには、社会の変化に受け身であってはなりません。自らが「平和な世界をつくっていくのだ」という主体的で積極的な生き方が大切です。この先、どんな困難に出会っても、自分を見失うことなく、冷静に事態を見極め、地に足を付けて、力強く生きていってくれることを願っています。

皆さんはこれから、新しい環境で新しい仲間と出会い、また豊かな学びが始まることでしょう。しかし、時には道に迷い行き詰まることがあるかもしれません。そんな苦しいとき、思い悩むときは、雄山中学校で過ごした日々を思い出してください。三年間、皆さんの成長を見届けてきた雄山中学校は、これからもずっとこの地から皆さんの人生を見守り、一人一人の幸せを祈りながら、エールを送り続けています。

終わりになりましたが、ご列席いただきました保護者の皆様。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。このように体は大きく逞しくなりましたが、十五歳には、まだまだ家族の支えが必要です。今後も家族の温かい関わりの中で、見守り、励ましながら、自立に向けて歩んでいく姿をしっかりと支えてあげてください。私ども教職員一同、お子様の成長と今後のご活躍を心からお祈りしております。
これまで本校の教育にお寄せいただいたご理解とご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願いを申し上げて、式辞といたします。

令和四年三月十五日　　立山町立雄山中学校　高瀬　知郎